

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当 時間数
				職種	役職		
地域と暮らし I (地域で暮らす)	1	1	前期	看護師	本校専任教員	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ・ <u>該当しない</u>				講義形式( 50 )% ・ 実習など講義形式以外( 50 )%			
評価 方法	提出レポート グループワーク 出席状況 授業姿勢			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論1:系統看護学講座 医学書院		
概要	地域の人々の暮らしを理解し、看護の対象を理解する素地を養う。						
目標	1.看護の対象者が暮らしを営んでいる生活者であることを理解する。 2.自分の住む地域の環境を理解し、人々の暮らしへの影響を考えることができる。						
回数	授業内容・計画						
1	序章 地域のなかでの暮らしと健康・看護 A 働くこと・学ぶことと暮らし B 高齢者のいる暮らし C 出産・育児と暮らし						
2	第1章 人々の暮らしと地域・在宅看護 A 人々の暮らしの理解 B 地域・在宅看護の役割						
3	第2章 暮らしの基盤としての地域の理解 A 暮らしと地域 B 暮らしと地域を理解するための考え方 (システム理論・システム思考)						
4	C 地域包括ケアシステムと地域共生社会 「自助・互助・共助・公助」						
5	津山郷土博物館見学						
6	【グループワーク】						
7	「自分の住む地域の環境と人々の暮らし」 について						
8	〔発表〕						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
地域と暮らしⅡ (地域で暮らす人々の生活と健康)	1	1	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ・ <u>該当しない</u>				講義形式( 50 )% ・ 実習など講義形式以外( 50 )%			
評価方法	提出レポート グループワーク 出席状況 授業姿勢			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論1:系統看護学講座 医学書院		
概要	地域の対象者の暮らし方、家族構成、家族間の相互作用をみる視点を養い、看護実践へと繋げる。						
目標	1.個人・家族の多様性を理解する。 2.看護の対象者が地域で暮らし続けるための課題を理解する。						
回数	授業内容・計画						
1	第3章 地域・在宅看護の対象						
	A 地域・在宅看護の対象者						
2	1 地域による多様性						
	2 ライフステージによる多様性 (小児期・成人期・老年期の対象者)						
3	3 健康レベルの多様性						
4	B 家族の理解						
	1 わが国における家族の現状 (世帯・婚姻・介護の状況)						
	2 わが国における家族とその変遷						
	3 地域・在宅看護の対象としての家族						
	C 地域に暮らす対象者の理解と看護						
5.6	社会福祉法人日本原荘(特別養護老人ホーム)見学 地域に暮らす疾患・障害をもつ人々の理解						
7	【グループワーク】 「安心して地域で暮らし続けるためには」						
8	〔発表〕						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
地域・在宅看護論概論 I (保険・医療・福祉と看護)	1	1	後期	看護師	津山中央病院 統括看護部長 兼 副院長	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 100 )% ・ 実習など講義形式以外( )%			
評価方法	筆記試験 100点			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論1:系統看護学講座 医学書院 あんしん介護保険:津山市		
概要	地域・在宅にかかわる法律・制度を知り、地域における暮らしを支える看護について学ぶ。 地域・在宅看護における多職種連携について学ぶ。						
目標	1. 地域における暮らしを支える看護を理解できる。 2. 地域・在宅看護における多職種連携について理解できる。 3. 地域・在宅看護にかかわる制度が理解できる。						
回数	授業内容・計画						
1	第4章 地域における暮らしを支える看護						
2	A 暮らしを支える地域・在宅看護 B 暮らしの環境を整える看護 C 広がる看護の対象と提供方法 D 地域における家族への看護 E 地域におけるライフステージに応じた看護 F 地域での暮らしにおけるリスクの理解 G 地域での暮らしにおける災害対策						
3	第5章 地域・在宅看護実践の場と連携						
4	A さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし B おもな地域・在宅看護実践の場 C 地域・在宅看護における多職種連携						
5	第6章 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用						
6	A 介護保険・医療保険制度						
7	B 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 C 訪問看護の制度 D 地域保健にかかわる法制度 E 高齢者に関する法制度 F 障害者・難病に関する法制度 G 公費負担医療に関する法制度 H 権利保障に関連する制度						
8	終講試験(1h):100点満点						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
地域・在宅看護論概論Ⅱ (在宅看護の展開)	1	2	前期	看護師	津山中央病院 専門副部長 兼 師長	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 80 )% ・ 演習など講義形式以外( 20 )%			
評価方法	試験 提出物			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論2:系統看護学講座 医学書院		
概要	人々の暮らしの中で、看護を提供する意義や面白さに気づき、対象者の「生きること」を支えることの大切さを学ぶ。そのために必要な社会資源を利用し、一人ひとりに応じた医療とケアを提供するためにケアマネジメントの必要性を理解する。地域・在宅での看護過程の展開方法を学び評価し、さらに発展させる視点を養う。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護過程の特徴、各段階におけるポイントを理解する。</li> <li>2. 地域・在宅看護の特性を含えた地域・看護過程の展開方法を理解する。</li> <li>3. 看護を展開する中で、地域・在宅看護を発展させる視点をもちつことの重要性を理解する</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1～2	序章 地域・在宅看護実践 「暮らしている人への看護」って？						
3～6	第1章 地域・在宅の看護の展開 A地域・在宅における看護過程 ①看護過程とその意義 ②地域・在宅における看護過程の基本 ③展開 B地域・在宅看護過程の展開方法 ①看護過程の展開の過程の特徴 ②情報収集とアセスメント						
7～9	③地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画 ④地域・在宅看護の実施と評価 ⑤地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点 ⑥地域・在宅看護の標準化に向けた取り組み						
10～14	看護過程の実際 事例展開による演習と講義 在宅看護の基本を押さえる…目的、特徴、概要 在宅看護過程のステップ…情報生理シートを活用した情報収集と情報整理 看護課題の明確化…考え方、具体例、優先順位の指針 看護計画…目標、援助内容の計画、実施、評価 事例展開…在宅看護計画の立案、関連図						
15	終講試験						
留意事項							
授業評価 終講テスト80点 レポート提出20点							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
地域・在宅看護援助論Ⅰ (在宅看護活動・ケアマネジメント)	1	2	後期	看護師	本校専任教員	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ・ ○該当しない				講義形式(90)% ・ 実習など講義形式以外(10)%			
評価方法	試験 提出物			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論2:系統看護学講座 医学書院		
概要	地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々と、その家族に対する在宅看護の意義や重要性を理解し、対象者の主体性を保ち、その人らしい生活が営まれるよう支援する方法を理解する。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションについて理解する。</li> <li>2. 「暮らしの場」で看護を行うために必要な家族を支える援助について理解する。</li> <li>3. 「暮らしの場」で看護を行うために必要な安全対策と事故防止の知識について理解する。</li> <li>4. 地域・在宅看護に関する療養環境の調整について学ぶ。</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
	地域・在宅看護の実践 第2章 暮らしを支える看護技術 1～3 A 暮らしの場で看護をするための心構え ①地域・在宅看護実践とは ②地域・看護実践に欠かせない要素 B セルフケアを支える対話・コミュニケーション ①対象者と看護師のパートナーシップ ②対象者との看護師の対話・コミュニケーション 4～5 C 地域・在宅看護における家族を支える看護 ①家族のアセスメントポイント ②家族の支援 ③家族支援の例 6～8 D 地域・在宅看護における安全を守る看護 ①療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 ②地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント ③地域・在宅看護における看護への暴力・ハラスメント 9～14 E 地域における暮らしを支える看護実践 ①療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 ②活動・休息に関する地域・在宅看護技術 15 終講試験						
留意事項							
授業評価 終講試験80点 レポート20点							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
地域・在宅看護論援助論Ⅱ (疾患・症状別在宅ケア、在宅看護の展開)	1	2	後期	看護師 看護師	訪問看護ステーション 師長 同 看護師	非常勤講師 非常勤講師	10 20
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式( 80 )% ・ 実習など講義形式以外( 20 )%			
評価方法	筆記試験 学習意欲 提出レポート			教科書・ 参考資料	地域・在宅看護論2:系統看護学講座 医学書院		
概要	療養者を取り巻く様々な環境を捉え、暮らしの場で行う看護技術と多様性・複雑生に対応した地域・在宅看護を創造して適切な看護を提供できる能力を養う。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅での各時期に必要な看護を理解する。</li> <li>2. 事例を通して地域・在宅での各疾患を有する療養者の看護を理解する。</li> <li>3. 地域・在宅での多職種連携を理解する。</li> <li>4. 地域・在宅看護のマネジメントを理解する。</li> <li>5. 地域・在宅での生活援助、医療処置を理解する。</li> </ol>						
回数	授業内容・計画						
1	第3章 地域・在宅における時期別の看護 1 健康な時期 2 外来受診期 3 入院時 4 在宅療養準備期 5 在宅療養移行期 6 在宅療養安定期 7 急性増悪期 8 終末期・グリーフケア 9 在宅療養終了期						
2	第4章 地域・在宅看護の事例展開 1 医療的ケア児 2 脳卒中 3 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 4 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 5 パーキンソン病 6 統合失調症 7 がん終末期						
3	第5章 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働						
4	第6章 地域・在宅看護マネジメント						
5	第7章 地域・在宅看護活動の創造と展開例						
6	第2章 暮らしを支える看護技術 3 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 ①経口摂取 ②経管栄養法 ③在宅中心静脈栄養法(HPN)						
7	4 排泄に関する地域・在宅看護技術						
8	①尿道留置カテーテル ②ストーマ ③腹膜透析						
9	5 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術						
10	6 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術						
10	7 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ①吸引 ②在宅酸素療法(HOT) ③在宅人工呼吸療法(HMV) ④非侵襲的陽圧換気(NPPV) ⑤気管切開下陽圧換気(TPPV)						
11	8 創傷管理に関する地域・在宅看護技術						
12	9 与薬に関する地域・在宅看護技術						
12	演習準備						
13 14	演習:地域・在宅看護援助の工夫						
15	終講試験						
留意事項							